

# 京都こだわりの丹波くり栽培暦(後期)

7月

果実肥大初期

下草刈

◎(実肥)



コウモリガの幼虫

**①コウモリガ防除**

幼虫の中間寄主である雑草を繁茂させないよう除草を徹底する。防除は防除剤を株元地際部に散布する。食入した幼虫は刺殺する。

8月

果実肥大盛期



モノゴマダラノメイガの幼虫

**②台風対策**

春に接ぎ木したものや幼木等の支柱を補強し、結立を完全にする。

**③実炭そ病防除**

樹勢を衰えさせないことが大切。発生が予想されるときは、防除剤を2~3回散布する。

**③追肥(実肥)**

果実の肥大を目的とし梅雨明け直前に、成木に年間施用量のチッソは1~2割、カリは3~4割を施す。

**④下草刈**

梅雨明け後の乾燥は果実の肥大を阻害するので、草刈と敷草を行い乾燥を防ぐ。

**⑤深耕(新植開園)**

休耕田又は耕作放棄地で開園する場合(梅雨明け)

9月~10月

果実成熟期

◎(礼肥)

収穫

**①収穫選果**

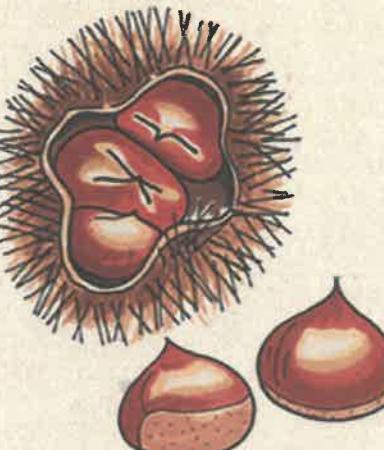
鮮度が落ちないよう早く捨う。選果はムシグリ、シワグリ、不整形果を完全に除き出荷する。

**②追肥(礼肥)**

9月下旬から礼肥として速効性肥料で年間施用量のチッソは2~3割、カリは1から2割を施すと、樹勢の回復と翌年の雌花の増加に役立つ。

**③イガの処理**

収穫直後直ちに地中50cm以上に埋めるか焼却する。青エミ果の多い園では必ず励行すること。



11月~12月

落葉期

◎(元肥)

縮・間伐

**①縮・間伐**

収穫後、落葉するまでに、隣接樹冠と1~2m間隔をあけるように行う。クリタマバチの被害は密植園に多いので、確実に実施すること。

**②秋植苗木定植**

深植えにならないよう注意する。特に土層が浅く排水不良の場合は、盛土をして植える。春植えより初期成長はよいが、寒冷地では春植にする。

**③元 肥**

有機質肥料を主体に施す。成木では散肥後、耕うん攪拌し、幼木では環状に溝を掘って施す。リン酸は溶リンがよい。